

霧島市地方創生有識者会議（第2回しごと合同会議）要旨

開催日時	平成27年8月4日（火）13：30～17：00			
開催場所	国分総合福祉センター 3階 大会議室			
出席者	会議有識者部会	鶴ヶ野研究部会長、松山研究副部会長、福園委員、山口委員、北川委員、瀬戸委員、楠原委員、中村委員、藤崎委員		
	専門推進本部	鎌田副部会長（農林水産政策G長）、梶委員（電算・情報推進G長）、森委員（長寿・介護G長）、山下委員（農政第1G長）、竹下委員（観光地づくりG長）、藤崎委員（企画政策課長補佐）		
	事務局	横山企画政策課主任主事		
	その他	（株）鹿児島経済研究所 市坪		
公開・一部非公開又は非公開の別		公開	傍聴人数	5人
<p>会次第</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 開会</li> <li>2 「霧島市人口ビジョン（素案たたき台）」等について</li> <li>3 「基本目標別（素案たたき台）」について</li> <li>4 第1回合同会議の振り返りについて</li> <li>5 意見交換</li> <li>6 その他</li> <li>7 閉会</li> </ol>				
<p>意見交換の要旨</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 売上がなければ会社は成長しない。創業・開発・PRといった一連の流れで支援していく必要がある。県の産業支援センターは細かい対応を行っている。創業支援、地場産業の育成も含めて霧島独自のシステムができれば。</li> <li>○ マーケティングを含め、経営面の専門家が地場産業に対する支援を行っていくことにより、花が咲きそうな事例が数多く存在しており、それが霧島市の課題でもある。新規創業も大事だが、地場産業に対する支援は更に重要。</li> <li>○ 霧島市の巨峰、桃は、山梨県にも負けないと思っている。それをどうやって霧島自慢として売っていくかが課題。輪島の朝市、函館の朝市には観光客が多数訪れ、地場の名産を味わうことができる。九州内ではこのような取組を行っている地域は少ない。有機農法でいい物を生産してもそれを誰かに食べてもらう機会がない。生産者の名前入りの農産物がじょうもん市場に出品されているが、市場が限定されている。「霧島自慢市」を月1、2回開催してみてもどうか。例えば、白菜をそのまま出すのではなくキムチに加工してみる。また、それらを市又は商工会議所がブランド化する。自慢の生産物をアピールする場を創出することにより、もの作りに対するやりがいが生じる。市民参画型の「霧島自慢市」を開催し、霧島市の自慢を市民が選んでいく仕組みができれば、自慢できる宝が必ず生まれる。</li> <li>○ 春山地区に観光農園があるが、市内の飲食店とコラボ・マッチングをして、川沿いや市役所前の広場でPRをしていければ。それにより、口コミで市外・県外に評判が広がっていく。「霧島」という名前をブランド化して売り込んでいくことが大事。そこでしか買えないものである</li> </ul>				

が、インターネットでは付加価値をつけて販売する。

- 付加価値を付けるためには、何らかの認証が必要。あれもこれもとなると「自慢」にならない。今の世の中はコマーシャルなので、IT関連業者に参画してもらい、霧島自慢市のウェブサイトを立て、販売実績ランキングなどを掲載する。マスコミも活用しながら、霧島市の自慢をアピールする体制を構築できないか。農産物に限らず、苗木でも工業製品でも構わない。
- キーワードは地産地消。売上の約半分は県外から材料を仕入れている。これを地場産業に展開できる可能性はある。新たなものを興すだけでなく、現在、地域外からトラック、飛行機で仕入れているものを、地場から仕入れることができれば、地域は活性化する。
- 創業支援センター等をうまく活用して、本当に動ける部隊を作っていけば。具体的アイデアとして「霧島活力隊」の結成。最初は小規模からはじめてもよい。構成員は、市役所、学校、企業を定年退職した方（霧島市にお世話になったので何かしらの地域貢献をしたい方）。
- 霧島市には色々な組み合わせができるというメリットがある。企業誘致において、職場環境や従業員の家族の暮らしを考慮すると、子どもがいる家庭は市街地に住むこともできるし、自然豊かな中山間地域を選ぶこともできる。様々なライフスタイルを送ることができる。そういったことを誘致企業に提案しフォローを行っていくことが大事。企業に対する支援、暮らしに対するサポート、地域資源、そのような「組み合わせ」が大切である。松本大学の事例は非常に有名であり、大学の考えは「大学が地域にとっての必需品」になること。大学の専門性を生かし地域にどのような貢献ができるかを考え、それと地域の課題を結びつけていく。
- 地方創生に関する提案として、1点目に就職支援協議会の設立である。これは、若者が地元に残ってもらうための取組。産官学が連携して就職と定着を図るものである。これまでは、企業、高専が単体で行っていたが、市が入ってくるにより違う結果が出てくる。そこに就職支援コーディネーターを新設し、市、教育機関、企業が情報を共有する。市が各学校にインターンシップに関する希望調査を行い、協議会は預けた会社に巡回を行い、その企業が何を望んでいるかを把握する。また、現在、単体で行っている企業説明会を、市・協議会・企業が連携して霧島市に特化した合同企業説明会を開催してもらいたい。もう1点は、地域協力特別講座。これは、企業及び市職員を教育機関に派遣し、学生・生徒に霧島の地域資源に関する話をしてもらう。
- コマーシャルをしても、なかなか人が集まらない企業もある。分野を拡げて地元の人が地元に残る仕組みができれば、即効性がある取組なのでぜひ検討願いたい。企業側の反省点は、魅力ある企業として学生に認識されていないこと。魅力ある企業とは、例えば、子育て支援サポート、くるみんマークの認定、ダイバーシティ、女性活躍支援であり、現在、国も積極的に進めている。女性、高齢者、障がい者の雇用に積極的な企業に対して、何かしらのインセンティブを付与してはどうか。
- 耕作放棄地が増えている。障害者福祉事業所などで農業を取り入れることはできないか。高齢者福祉においては健康づくりの一環として活用できないか。遊休農地の区画を割って貸農園にする取組も面白い。